

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞水稻
＜産地の現状・課題＞

水田作担い手農家の経営受託面積は年々増加しており、燃料の価格高騰による経営費と労働時間の増加が経営を圧迫している。(一社)日本農業機械化協会の「農業機械の省エネ利用マニュアルH27」によると、耕起作業はロータリー耕よりけん引式の作業機(スタブルカルチ等)の方が燃料消費量の削減ができ、作業時間も短くなることが示されている。

産地では、けん引式作業機が普及し始めており、燃料消費量の削減と作業時間短縮を実証するため、ロータリー耕とけん引式作業機による耕起を比較・評価し、経営改善の技術提案をする。

2 検討体制

＜愛知県組織と関係機関の役割＞

- ・農業経営課(事務局)
- ・農業革新支援センター(実証ほ調整、技術指導、栽培マニュアルと産地戦略の作成)
- ・普及指導センター(実証ほ調査、検討会の参加)
- ・JAあいち経済連(技術支援、検討会の参加)
- ・JA(調査補助)
- ・農業者(実証ほ管理、技術の検証)

ロータリー2回耕起

スタブルカルチによる荒起こし
パワーハローによる碎土



3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
CO ₂ ・NO ₂ 排出削減	前作残渣処理と耕起	＜取り入れる技術＞ けん引式作業機利用による燃料消費量の削減

＜省力化に資する技術＞

作業段階	新たに取り入れる技術
前作残渣処理と耕起	＜取り入れる技術＞ ・けん引式作業機利用による作業時間の削減

4 活動内容及び得られた成果

＜活動内容＞

水稻収穫後のほ場において、試験区(けん引式作業機であるスタブルカルチと土塊を碎土するパワーハローの作業)と、対照区(ロータリー2回耕)を比較した。

セミクローラー113馬力のトラクターで試験実施

＜実証結果＞

試験区は対照区に比べ、消費燃料は52%削減、作業時間は26%削減できた。試験区は対照区に比べ、ほ場の均平と碎土がやや劣ったが、試験農家はその後の作業性に問題はないと評価した。

5 今後の展開

水田作担い手農家に対し、栽培マニュアルを用いてけん引式作業機による作業効果を示し、燃料消費量の削減と作業時間の短縮による経営改善を推進する。